

平成25年 5月14日

各 位

会 社 名 株式会社ジーンテクノサイエンス
代 表 者 名 代表取締役社長 河 南 雅 成
(コード番号：4584 東証マザーズ)
問 合 せ 先 取締役CFO 三 ツ 木 勝 俊
(TEL. 03-3517-1353)

平成26年 3月期の業績予想について

当社は、本日公表いたしました平成25年 3月期決算短信において、平成26年 3月期の業績予想を開示しておりますが、その内容が大幅な開発方針の変更を伴うものであることから、その重要性を鑑み、下記のとおり重ねてお知らせいたします。

記

次期における我が国経済は、海外における政治・経済・外交面での不安材料はあるものの、景気回復の流れが経済全体に波及することへの期待感が高まっております。

一方、我々が業を営む医薬品業界についても、政府によるジェネリック医薬品の普及促進策やTPP参加などにより、変革の時代を迎えようとしております。

当社は、このような状況をビジネスチャンスと捉え、バイオ後続品事業、バイオ新薬事業のそれぞれにおいて、積極的に研究開発を進めてまいります。一方、平成25年 5月 1日付で転換社債型新株予約権付社債及び新株予約権の発行を行い、十分な研究開発資金を確保いたしました。当社は、今回調達した資金を積極的に活用することで、研究開発の加速と利益率の向上を図ることができ、企業価値の向上に資するものと考えております。

次期の業績に関しましては、昨年11月に製造販売承認を取得したG-CSFの上市が見込まれており、安定的に収益が計上されるステージに移行いたします。また、今後は研究開発費も発生しないため、G-CSF単独でのキャッシュ・フローはプラスに転じる見込みであります。

なお、平成24年11月30日付で公表いたしました「当社中期経営計画等のお知らせ」における計画数値は、上場時の調達資金を前提とし、製薬企業等との提携による開発費用の分担を前提として策定したものであります。今回の(株)ウィズ・パートナーズからの出資により、G-CSFに続くPEG-G-CSFをはじめとする開発品について、自社開発による臨床試験入りまでの資金的裏付けを確保することができたため、他社との提携に依存しない自社開発を開発の基本方針といたしました。このため、先行投資による研究開発費を776,916千円予算計上し、これが経常損益の業績予想の主要因となっておりますが、今回確保した資金を背景に攻めの開発を進めることにより、各開発品の価値最大化のために適時・適切な事業開発活動が可能となり、各開発品の将来収益を高めることができると考えております。

加えて、(株)ウィズ・パートナーズから取締役 2名の派遣を受けるとともに、同社のネットワークを最大限に活用し、事業開発活動の加速化を目指します。その成果は、バイオ後続品事業における製薬企業等との提携、バイオ新薬事業におけるアカデミア等からの新規シーズの獲得あるいは研究開発力

の強化を目的とした基盤技術の取得など多様なものが想定されます。ただし、今回公表いたしました業績予想は、現時点で確定しているボトムラインの成果以外は織り込んでおりませんので、今後の事業開発活動による成果が確定した時点で、適時に業績予想の修正を行ってまいります。

このような状況を踏まえ、次期の業績につきましては、売上高301,700千円、営業損失878,586千円、経常損失888,449千円、当期純損失891,839千円を見込んでおります。

以 上